

今回は、昨年度卒業生、嶋口花乃さんの合格体験記です。

◇ 岐阜薬科大学薬学部薬学科に合格しました！

私は第一志望だった岐阜薬科大学薬学部薬学科に合格することができました。この合格に至るまで、日々の学習のサポートに加え、志望校に関してアドバイスや助言をしてくださった先生方、励ましてくれた友達、自分に自信を持てるような心強い言葉をかけてくれた家族にはどれだけ感謝をしてもしきれません。

私が岐阜薬科大学を第一志望の大学にすることを決意したのは2年生の夏休み期間でした。その頃の私の学力では全く手の届かない大学でしたが、岐阜薬科大学に行きたい！という強い思いは人一倍持っていたと思います。第一志望校が決まり、確実な目標ができると、定期テストの為だけではなく、未来の自分の為に今必死に頑張ろうと思え、勉強にも本腰が入るようになりました。また、詳しく調べていくと、岐阜薬科大学には3種類の受験方法があることを知りました。その中でも、私は2年生の頃から、英語のスピーチコンテストや、FRHの活動を行ってきていたので、その強みを最大限に生かすことができる学校型選抜という方法での受験に挑戦してみることを決意しました。その頃から、それまで以上に普段の生活と勉強を大切に、気持ちを受験に向けていくことができました。このような私自身の体験からも、行きたい大学を決めると、目的意識を持つことが出来るため、とてもやる気が出るし、自分はどの科目を特に頑張れば良いのか具体的に分かるので、なるべく早めに志望校を決めるといいと思います。志望校決定の為にも、自分の興味のあることや、好きなこと、得意なこと、理想の将来像を自分自身でしっかりと考える機会を作ることも大切だと思います。

私が目指していた薬学部の受験には、どの大学でも、化学が必須科目になってきます。また、受験後、つまり大学入学後にも、必ず高校で学んだ化学の基礎知識が必要不可欠になってきます。しかし、高校二年生の頃の私は化学がとても苦手でした。この苦手を克服したのは3年生で、理論化学を一通り学び終え、新たに有機化学という分野を学び始めたタイミングでした。有機化学について知れば知る程、勉強が楽しくなり、より深く学びたいと思うようになりました。今まで色々な勉強をしてきましたが、その中でも最も楽しいと思えるのが有機化学の分野の勉強だったと思います。私は有機化学を極めると同時に、3年生の夏休み期間に苦手な理論化学を一から網羅して復習し直しました。今までは化学に対する苦手意識が強く途中で諦めてしまう問題も、粘り強く解いては直しを繰り返して行いました。それは、有機化学を好きになり、化学に対する苦手意識がだいぶ薄れていたのもあるし、大学受験が近づいてきている焦りと合格への思いが強かったからだと思います。とにかく沢山の問題に触れ、知識を詰め込みました。本番の試験でどんな問題が出てもしっかりと対応できるようにと自分を鼓舞しながら、一問一問と闘うような気持ちで問題と向き合っていました。程よい緊張とプレッシャーを自分にかけることが出来ていたと思います。3年生の夏休みが終わるころには、化学の苦手意識は十分に払拭することが出来ていたし、夏休み明けから新たに学び始めることになっていた無機化学の勉強へと気持ちをスムーズに向けることが出来ました。先生方が口を酸っぱくして言うように、本当に夏休み期間中の勉強が大切なのだと身をもって実感しました。授業が無く、新しい知識が入ってこなくなる時期こそ、今までの総復習や苦手科目の克服に思う存分に時間を割くことが出来ます。そして、一人でどれだけ努力し続けられるか





で良くも悪くも周りとは大きく差がつく時期でもあると思います。受験直前になって後悔しないためにも、本当に夏休みの期間を大切にしたいです。夏休み期間は、学校のようにきっちりとスケジュール管理がされていないので、私も沢山の誘惑がある中で机に向かうのはとても大変でした。しかし、踏ん張り時の3年生の夏休みには、私は、程よく息抜きや休憩もしながら、合格した後には待っている大学での未来を想像したりして意志を強く保つようにしていました。1年生や2年生の時から、とにかく毎日勉強机に向かうといった習慣作りをすることも大切だと思います。

また、私は、2年生の前期から3年生の夏にかけてFRHの活動に力を入れてきました。その活動では、ほらどキウイを未来につなごうプロジェクトを盛り上げるための様々なことに挑戦しました。友達と一緒に英語でのプレゼンテーションを行ったり、実際に開発した商品の販売に携わったりと普段の生活では決してできない貴重な経験をさせてもらえました。中には、活動の中で問題にぶつかり、悩んだこともあったし、自分の勉強の時間を削ってプレゼンテーションの準備をしないといけないこともあり、正直とても大変に感じる時もありました。しかし、振り返ってみれば、それも含めて本当に良い経験になったし、高校生活の大切な思い出の一つです。私自身が大学について調べていく中で思ったことなのですが、FRHで得られる様々なスキルは、大学生活にとっても生きると思います。例えばプレゼンテーションを作り発表するという事は大学でもよく行います。また、グループディスカッションの進め方や、実行力や想像力などを高校生のうちに身に付けておけることは、他の高校の子と自分を差異化できる強みになってくれると感じました。受験での面接などで自分の長所や高校生活で得られたことなど聞かれることもあるかと思います。実際に私も、受験の面接でFRHのことを話しました。今まで頑張ってきたことだったので、自信をもって高校で行ってきた活動についてと、それによって得られたスキルなどについて言葉にすることが出来ました。また、面接の場では、もちろん緊張はしたのですが、FRHの活動で発表という場には慣れていたので、落ち着いて聞かれたことに応答することが出来たと思います。むしろ、楽しいと思えて、面接の時間があっという間に感じるほどでした。このように、FRHの活動での経験は本当に様々な場面に生きてきます。私の後輩の子たちにもぜひFRHの活動への参加をおすすめしたいです。

受験を間近に迎えると、本当に気持ちが焦るし、沢山勉強しているのに、まだまだ勉強し足りないと思えてきます。もっと早くから受験対策を始めていれば良かったと思うことも沢山ありました。私が受験した学校型選抜の試験は11月という少し早めの時期にあったため、周りの子と自分の置かれている状況の差を感じ、精神的にもとても辛い時期がありました。そんな時に私を応援してくれる友達はとてもありがたい存在でした。時には静かに見守ってくれたり、またある時には、あたたかく支えてくれたりしました。試験前日に強く私を応援してくれた友達からは自信と勇気を沢山もらいました。本当に私の友達には感謝しているし、本当に良い友達を持ってとても幸せだと思っています。私の後輩の子たちには、そのような友達との信頼関係も大切にしながら、自分の進路実現に向けて、全力で勉強を頑張ってもらいたいです。

